実践報告

介護の仕事・職業訓練の魅力発見
―学生インターンシップによるプロジェクト発表―

島根職業訓練支援センター　求職者支援課　安藤　慎太郎
斎藤　理佳
大天　健一

1．はじめに

島根県における求職者支援訓練の実践コースでは，介護系・医療事務系・情報系・その他の分野で構成されている．とりわけ介護系のコースの認定枠（介護や情報などの分野ごとの募集定員枠）が多く設定されており，人材不足の状況改善に努力しているところである．

介護業界のイメージや労働条件の改善も必要であるが，求職者支援訓練では介護業界の仕事を経験したことがない方向けのコースを設定していることから，広報の着眼点や手法などのヒントを得て，実施機関が行う広報活動の参考とするため，若者目線で魅力を発見するプロジェクトに取り組むこととした．

プロジェクトはしまね学生インターンシップ（夏期）（以下，「夏季学生インターンシップ」という）夏季学生インターンシップ受け入れにより行うこととし，学生５名をジョブカフェしまね（公益財団法人ふるさと島根定住財団）を通して募集を行うこととした．

島根職業訓練支援センター（所長　尾中宏明）では平成25年度夏季学生インターンシップに続いて，２回目の夏季学生インターンシップ受け入れとなる．

平成２５年度に実施したインターンシップでは求職者支援訓練の基礎コースと実践コースの２チームに分かれてコース企画に取り組み，提案内容は平成26年度に実施する新設コース「プログラミング実践科」（学校法人斐川コア学園）や従来からの実施コースである「オフィストレーナー科」（有限会社くりっく）の実施に活用している．

2．インターンシップの進め方

インターンシップは全体で５日間の計画とした．
初日：オリエンテーション，制度理解，事前調査
２日目：調査仮説設定，ヒアリング内容の検討，目標の共有化
３日目：ヒアリングの実施，情報交換，中間報告
４日目：資料作成，まとめ，発表会企画，決裁
５日目：発表資料準備，会場設営，発表

詳細はインターンシップカリキュラム（図１）参照

限られた時間の中で効果的な分業を進めて，介護の仕事や職業訓練の魅力を発見し，これから新たに介護の仕事を目指す人への広報や説明をどうするのかなどについて，検討を行うものである．

参加学生は島根大学２名，北九州市立大学１名，香川大学１名，下関市立大学１名の計５名であった．

3．インターンシップのカリキュラム

インターンシップのカリキュラムは介護業界の人材不足の状況に対応するためどのような対策をするのか等の課題を提示し，参加者が主体的に調査，検

インターンシップカリキュラム

			開催会場	セミナールーム
コース番号	コース名	期間	定員	日数
	平成２６年度夏季インターンシップ（求職者支援課）	公開発表日：平成26年9月5日（金）14時 平成26年9月1日（月）～9月5日（金）	5	5
研修のねらい及び到達目標	チームによる企画業務の体験において、ビジネスで求められる次の３つの力を活用する。①主体的に考えまとめる力（考える）②目標に向かってチームで仕事を進める力（行動する）③調査結果をまとめ他者にわかりやすく伝える力（発表する）。経験からの学習を通じ、職業人としての基本的姿勢を習得する。			
研修対象者と前提条件	大学、短大、専門学校等に在学する学生（学年は不問） ＊受入期間（５日間）の全日程参加可能な方に限る			
インターンシップ内容	項目		学科	実技
	１．目的と目標（初日） （１）インターンシップの目的・オリエンテーション（職場紹介、留意事項等） （２）自己紹介・参加のねらい等 （３）求職者支援制度説明と目標設定	平成２６年９月１日（月）	2	4
	２．計画策定と目標の共有化 （１）インターネット調査 （２）グループディスカッション （３）計画の決定、調査予約	平成２６年９月２日（火）	1	5
	３．計画の実行 （１）ヒアリング・インターネット調査 （２）調査データの整理 （３）仮説の設定と中間発表	平成２６年９月３日（水） 松江HW福祉、島根県福祉人材センター グローバル、まめの木園	1	5
	４．データ分析と論点整理 （１）課題の対応案の検討 （２）企画書の作成 （３）発表資料・広報資料の作成	平成２６年９月４日（木）	1	5
	５．資料調整、準備、発表、講評 （１）プレゼンテーション資料作成 （２）発表準備・打ち合わせ （３）発表	平成２６年９月５日（金） 公開発表日：平成26年9月5日（金）14時	1	5
			計　6h	計　24h
担当（所属）	島根職業訓練支援センター求職者支援課職員			
使用する機器及び教材等	プロジェクター、パワーポイント、自作資料 ●予定成果物（調査結果報告書、業界等魅力アピール資料、募集案内チラシ）			

図１　インターンシップカリキュラム例

討する内容とした．課題に対する情報収集をし，ヒアリングやディスカッションを重ね，仮説を立て，資料にまとめて最終日に発表をするというものである．

発表にあたって，発表のスケジュール計画・事前説明・段取りの実行など業務に必要な準備をすべて学生が行うこととした．

本インターンシップでは，次の３つの項目を設定している．

チームによる企画業務の体験において，ビジネスで求められる次の３つの力を活用する．①主体的に考えまとめる力（考える）②目標に向かってチームで仕事を進める力（行動する）③調査結果をまとめ他者にわかりやすく伝える力（発表する）．経験からの学習を通じ，職業人としての基本的姿勢を習得する．

4．本インターンシップを行う背景

受け入れ側としては地域への貢献や若者の就職意欲の向上などが考えられるが，あわせて求職者支援制度の広報の効果も期待できる．

また，求職者支援訓練の実施機関の受講者募集についての課題へのヒントを得られる魅力がある．

介護業界は人材確保や育成，労務管理の改善などの課題がある．当センターも（公財）介護労働安定センター島根支部の「介護労働懇談会」に参加して，意見交換を行っているが，「介護人材確保」「離職防止や定着促進」は重要な検討課題となっている．

島根県において求職者支援訓練は，四半期ごとに認定申請を行いコース設定しており，年間を通じて介護人材育成のコースを設定している．

この訓練の応募状況は平成24年度は60％であったのに対し平成25年度は43％にまで落ち込んだ．

景気が回復して他の業界の求人も多くでるようになり，介護業界を希望する人が相対的に減少したことなどが，その要因と考えられる．

介護業界の人材不足は依然として続いており，人材の需給バランスを改善するために若者目線による業界や職業訓練の魅力を発信するというテーマをインターンシップで設定することとした．

主な検討内容は次のとおりとした．

①介護業界の問題点や課題を押さえた上で魅力について発表を行う．

②介護業界を知らない未経験者を対象にどこが魅力かをわかるように発表してもらう．

③訓練を提供する側がどんな点を配慮してアピールする必要があるかなど，介護関係の実際のコースの案内などの情報収集をし，良い事例などをまとめる．

④広報チャネルについて検討し，期待される効果や使用方法の提案を行う．

5．インターンシップの実施概要

5.1　参加学生への説明内容

求職者支援制度とは，雇用保険を受給できない求職者の方が，職業訓練によるスキルアップを通じて早期就職を目指すための制度で，受講料無料の職業訓練である求職者支援訓練が提供される．この職業訓練は，雇用保険を受給できない求職者の方などを

対象として，民間訓練機関が厚生労働省の認定を受けた職業訓練を実施するもので，次のようなコースを設定している．

①基礎コース：多くの職種に共通する基本的能力を習得するためコース

②実践コース：特定の職種の職務に必要な実践的能力を一括して習得するためのコース

実践コースでは介護分野，医療事務分野，情報分野，その他分野の設定を行っている．

特に介護分野ではコースの認定枠が大きく設定されており，求人ニーズが高いにもかかわらず，応募状況が低調な状態が続いている．介護業界の魅力について，上司から示される課題メモを参照し，課題解決に向けた仕事に取り組むこととした．

5.2　インターンシップ経過

初日にオリエンテーションで課題に取り組むプロジェクトチームを編成した．問題意識の共有化や課題解決に向けて検討を行った．

初日から２日目にかけて，インターネット調査や上司への質問を通して，課題の整理を行い，ヒアリング調査の質問などの準備を進めた．

写真１　事前準備

２日目にヒアリングポイントを整理し，面談の予約を参加者が行うこととした．

ヒアリングは１日で終える予定としたため松江市内の事業所等を選定している．

ヒアリング先は次のとおりとした．

①実施機関　（株）グローバル

②介護事業所　（株）建装　まめのき園

③訓練相談　松江公共職業安定所

④人材紹介　島根県福祉人材センター

５名の参加者が分担してヒアリングを行うこととした．

写真２　介護事業者ヒアリング

写真３　実施機関ヒアリング

写真４　内容報告

写真５　決裁の説明

３日目のヒアリングについて，求職者支援課職員に概要報告をし，質疑応答などを通じて，仮説をまとめた．島根県内では（株）グローバルのほか（株）日本教育クリエイト出雲教室でも介護系コースを実施しており，実際の募集チラシ等を参考に検討を進めている．

４日目に関係者にまとめた内容の報告をし，関係部門の決裁を行い，５日目の発表会の準備を行った．

５日目は４日目に不在となった所長決裁を午前中に終え，資料の修正，発表のリハーサル等を行い，午後の発表会に臨んだ．

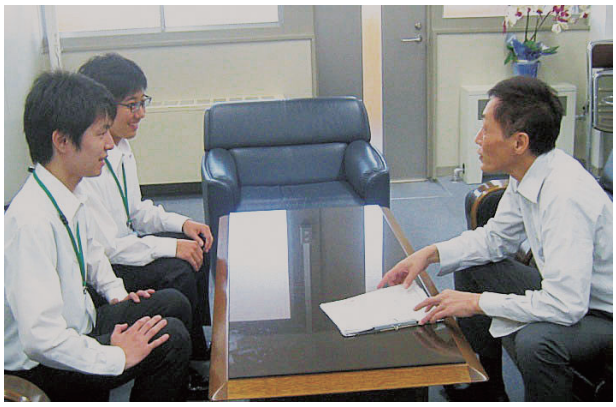


写真６　所長決裁

5.3　発表の概要

レジメのほかパワーポイント資料を作成し，発表を行った．発表会には島根県，介護労働安定センター，地元の新聞社等に聴講いただく公開発表として最終日に発表を行った．

発表の主な内容は次のとおりであった．

（1）魅力発信のためのポイント

介護業界での就業未経験者への情報発信や相談において，留意するポイントについて提案された．

①営業・サービス業の経験者が馴染みやすい

ヒアリング情報から上記の①の仮説を設定

・相手の気持ちを考える能力にたけている人
・言葉遣いが丁寧な人
・物腰が低い人
・コミュニケーション能力が高い人

②仕事について

・感謝の言葉を直接かけられることで，やりがいを感じる
・働きながら資格取得することで，収入が安定する
・利用者の笑顔に直接接することで自分が元気になれる
・高齢化の進展が今後も見込まれており，景気に左右されない環境がある
・ハローワークの求人状況も介護関係は他の産業よりも安定して多くあり，就職しやすい状況が続いている
・高齢者が安心して喜んで暮らせるように支援する仕事という，仕事そのものにやりがいを感じる

③訓練実施上の工夫

・訓練生に仕事のイメージをつかみやすくするために事業所の説明会を実施する
・訓練生ひとりひとりとの情報交換ややりとりを意識的に多くとるようにし，訓練生の変化を大切にした対応を行う
・自信をつけられるように丁寧に繰り返しでも受講生に対応する
・訓練を通じて，「失敗を成功だと考えられるようになる」よう，メッセージを発信している

④訓練のメリット

・介護の経験のある講師や介護事業所から直接情報を得ることで就職前に仕事の状況を把握できる
・就職して資格取得をする方法もあるが，あらかじめ体系的に専門知識を学んでいることで自信がつく
・生活リズムができる．就職前に就職後の日々の勤務に馴染みやすくなる
・同業界を目指す仲間との出会いは，就職後の情報交換ができる仲間づくりにもなる

（2）留意すべき課題

①現場での人材不足

・十分な人材が確保できないことで，自分がやらなければならないという精神的な負担が大きくなることがある．

②事業所側は夜間，土日の勤務ができる人を希望するが，求職者側は平日の日中のみを希望する人が多数となっている

③求職者側から見て給与が希望額より安い

④マイナスイメージの払しょく

インターネットで情報収集すると，仕事の厳しさなどのマイナスイメージが多く見られる．

魅力的な情報を見つけるのが難しい状況にある．もっと積極的に業界の魅力を発信していくことも必要となるであろう．

(3) 介護の魅力発信の提案

学生の発表では，特に実現可能性を考えず自由な発想を発表することとした．

①介護の仕事を数値化する

介護の主だった仕事を作業に分け，作業の数値化をする統一した表現法を確立させる．

例えば，この仕事は何カロリーの消費量の作業がどれだけあるといった表現をすることで，仕事の総量を把握しやすくする．

また，こうした仕事量のバランスを考えて人材配置をするなどの活用をすることで，適正な配置も可能となる．

公共職業安定所（ハローワーク）における職業訓練の紹介においても，仕事を数値化した説明をすることで，イメージではない具体的な仕事の相談もできるようになると思われる．

②介護用ロボットの普及促進

介護分野にロボット技術を導入することで，身体的に負担感のある作業を円滑にできるようになるのではないか．また，一部の作業をロボットが担当することで人材の省力化にもつながるのではないかとの提案である．

業界の専門性を持たない人の発想が加わることで，現場業務の改善や発展も考えられるようになるのではないだろうか．

③高齢者とのふれあいの場の確保

学校教育の中で高齢者とのふれあいの場を確保することも重要ではないかとの提案があった．

高齢者は過去には職業人であったり，人生の様々な経験者でもある．インターネットや本で入手できる情報では偏りがでるため，高齢者の話を聴くような機会は人生観や職業観の醸成に大いに役立つのではないだろうか．

また，大学等でも専門性を問わず介護の実習を科目に加えるような取り組みも必要ではないだろうか．人との関り方などの視点を学ぶことにもなる．

④キャリアパスの提示

介護業界に入職後のキャリアパスについて整理して職業相談窓口に整備し，それをもとに相談が進められると，将来イメージがつくようになると思われる．

入職当初は給与が思った金額に満たないかも知れないが，資格取得を重ね，仕事の実績を積むことで将来のキャリアイメージが明確になっていくことが，やりがいの一つになっていくと考えられるだろう．

写真７　公開発表会の風景

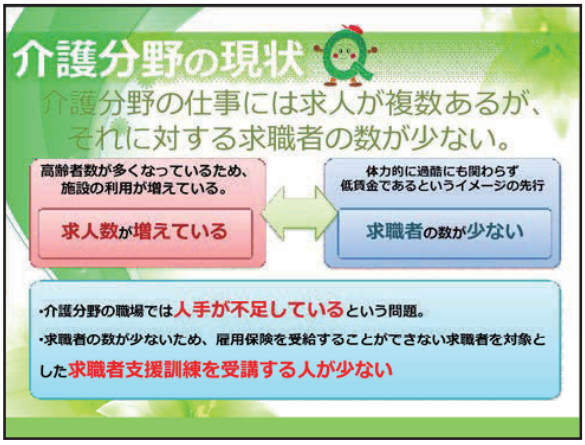


図２　発表スライド

写真８　公開発表会の風景

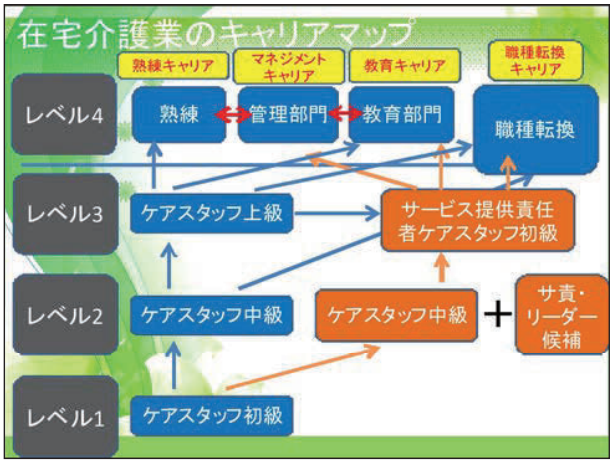


図３　在宅介護業のキャリアパス

⑤積極的な広報の推進

ホームページはもちろんフェイスブックやツイッターなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した広報も積極的に推進したらどうだろうか．

現在のところ公的な機関の情報発信ではフェイスブックなどのSNSの活用は十分とは言えない状況にあるのではないだろうか．（検索をしてもなかなか情報が出てこない）

また，ホームページでは様々な介護情報がでているが，体系的な情報入手ができるものが見つけられなかった．

事前に介護の知識を持たない人が，介護業界を調べようとしたときに，ネガティブ情報が先に出てしまうと，その先の進展は期待できない．

どこを調べたら介護の仕事のことが分かるのかが分かるようにするといった取り組みも必要ではないだろうか．

写真９　公開発表後の参加メンバー

(4) 今後の期待

理系の学生の参加もあってか，介護分野へのロボットの活用についての状況報告があった．

移乗支援（車いすからベッドなどへの移動を補助），移動支援（他の場所へ移動することを補助），排せつ介護，見守り，入浴支援など，ロボットによる介護支援も広がってきている．

ロボットを活用することで自力でできるようになり，高齢者本人に自信をつけてもらうことも考えられる．ロボットの活用には現場の状況を良く知った人が，それぞれの課題に対応した活用方法を提案する企画提案力が求められる．このように現場の改善提案をし，よりよくしていく仕事も発生するかも知れない．

ロボット技術は今後進展していくことが期待されており，人手不足が続く介護分野での活用についても，経営者や現場の人が考えていくことも必要ではないかという提案である．

こうしたロボットの活用が進めば，介護分野の職業訓練にも技術分野の訓練科目が求められるようになるかも知れない．

そうすることで，介護分野とは縁遠いと思われる理科系の人材が介護分野で貢献していくことも考えられよう．

6．おわりに

チームによる企画業務の体験において，「①主体的に考えまとめる力（考える）②目標に向かってチー

ムで仕事を進める力（行動する）③調査結果をまとめ他者にわかりやすく伝える力（発表する）」という体験学習をしていただいた．

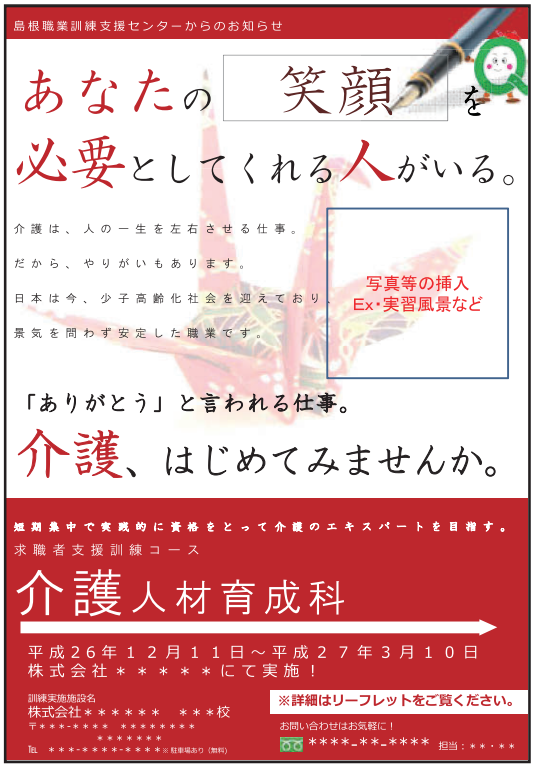
平成25年度（昨年度）のインターンシップでは求職者支援訓練のコース企画というテーマに取り組んでいただき，その成果はその後，求職者支援訓練の実施機関の認定申請の相談業務に活用している．

具体的には業界団体に参加いただく検討会を開催し，「プログラミング実践科」のコース設定，実施に結びついたところである．

今年度の成果は，島根県内で人材不足が進む介護業界の課題解決に向けて，介護系の求職者支援訓練のコースの実施機関等に情報提供をし，有効に活用していきたいと考えている．

成果物として，ポスターやリーフレット案，そして報告書のまとめを作成していただいている．

●提案されたポスター



これらは平成26年度第４四半期以降に認定申請をされる介護系の実施機関（民間教育機関等）に情報提供をし，活用を図っていきたいと考えている．

参加された５名の学生のこれからのご活躍に期待します．

末筆ながら（株）グローバルの代表取締役社長の谷口真氏，（株）建装　まめのき園のグループ長の竹内裕子氏，松江公共職業安定所の就職支援ナビゲータの藤原龍嗣氏，社会福祉法人島根県社会福祉協議会（島根県福祉人材センター）周藤祐太氏におかれましては，ご多忙の折にも関わらず，ご協力を賜りましたこと，厚くお礼申し上げます．

●提案されたリーフレット（表面）

●提案されたリーフレット（裏面）

この成果は公益財団法人介護労働安定センター島根支部（支部長　山野博子）が開催する島根県介護労働懇談会において報告しました．同懇談会では地域における介護関係機関が情報交換，意見交換を行い介護人材の確保，定着，育成などの方針を検討されています．地域において求職者支援制度を今後，積極的に活用いただけたら幸いです．

＜参考文献＞

1）「学生インターンシップによる求職者支援訓練コース企画」職業能力開発技術誌 技能と技術 Vol.49 2014年1号 通巻第275号
https://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/GinouGijutu/e-book/201401/pageindices/index13.html
2）求職者支援訓練のご案内（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyushokusha_shien/
3）高齢・障害・求職者雇用支援機構島根支部ホームページ
「求職者支援訓練総合」
http://www3.jeed.or.jp/shimane/poly/kyu_shien/index.html
「民間教育機関向け」
http://www3.jeed.or.jp/shimane/poly/kyu_shien/kyu_kikan.html
「求職者向け」
http://www3.jeed.or.jp/shimane/poly/kyu_shien/kyu_kunren.html
4）厚生労働省「キャリアパス等の公表について」
http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/10/tp1023-1.html
5）島根県福祉人材センター
http://www.shimane-fjc.com/index.html
6）求職者支援訓練制度における求職者支援訓練（島根労働局）
http://shimane-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/hourei_seido_tetsuzuki/shokugyou_kunren/_86455/_86391.html

（注）島根職業訓練支援センターは平成27年度４月１日に高齢・障害・求職者雇用支援機構島根支部に名称変更いたしました。